

## とある職場の異常な管理の実態 シリーズ NO,1 ～〇〇運輸区編～

我が社の乗務員区所では、異動や退職の際に「今までの労を労うための出迎え（いわゆる「ラストラン」）」が慣例化しており、世間的にも「人間味のある良いことだ」と評価を頂いています。

最近、ラストランの出迎え方に問題があり、その出迎え方に対する全社員教育が行われました。その際に管理者からも「ラストランは否定しない。労を労うことはむしろ良いこと」と教育を受けています。

しかし、最近のラストランでは、赤ラインの帽子を被った3名の管理者がホームに出場し、最後の乗務になるその社員に一言も労を労う言葉をかけることなく、ずっと何かを見ていました。たまたま出勤のために電車から降りてきた営業関係の社員は、ホームに管理者が3名もいたことに対して「何かあったのかと思った」「異様だな」と言っていました。社員がみても異様な光景に映るのだから、お客様にはどう映るのですかね～。心配です・・・

もう社員教育も済んでいるのですから、社員を信頼して管理の側ではなく、一緒に労を労うためにホームに出向くべきではないでしょうか…ラストランを否定しないのであれば…みんなであれば、社員のモチベも上がり、会社の評価も上がると思いますよ。

